

2021(令和3)年度 亀山南小学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅰ

重点目標		学校自己評価： A	
[1]個を大切にした授業を展開し、基礎基本の定着と学ぶ力の向上を図る。		〔評価〕A:達成 B:概ね達成 C:不十分	
行動計画及び目標値	達成状況・評価結果	成果や課題、今後の方針 等	評価
<行動計画> ① 一人ひとりが意欲的に取り組める授業づくりを行う。	<目標値に対する達成状況> ・一人1回以上の研究授業やOJT講師 7人中4人実施(1月末現在) ・補充学習の実施 委員会のない金曜日に開催 ・児童・保護者の授業理解に対する評価 児童:98%、保護者:96% ・教職員による児童の授業理解に対する評価 94% ・学力向上の取組についてのアンケート(亀山市)100%(全項目)	コロナ対応として、積極的にオンライン同時配信授業に取り組んだ。先進校視察を行い、必要な環境を整えたり、OJTを随時行ったりして、スキルアップと意識の向上を図った。急にオンライン配信が必要になった際も、すぐに家庭訪問やポストインにより対応して学びを保障できたことはよかった。今後もさらに柔軟に対応できるよう努力したい。また、校内研修は、より具体的な提案を心がけ、わかりやすく身になる時間になるよう努めた。課題となるのは、研修の時間確保であるが、日常的に教職員間で学び合いが生まれるよう、校内外の人事による体制の整備、職員質の座席の工夫などに努めていきたい。また、令和4年度は、中学校区の研究発表指定をうけているので、研究主題である『考えや思いを主体的に表現する子の育成～「やってみよう」伝え合いたい・深め合いたい』を目指した授業づくり～』の達成に向けて研修に励みたい。	A
<目標値> ・一人1回以上の研究授業やOJT講師 ・朝学習、補充学習の充実 ・児童・保護者の授業理解に対する評価90%以上 ・教職員による児童の授業理解に対する評価90%以上 ・学力向上の取組についてのアンケート(亀山市)90%以上	「先輩教員から学ぼう会」と題して、若手教員の悩みや疑問をもとに語り合うOJTを複数回開催した。若手教員にとって不安をやわらげたり、すぐ役立つ実践のヒントになったりして有意義であった。		
<行動計画> ② 表現力の向上につながる授業づくりに取り組む。	<目標値に対する達成状況> ・児童・保護者の伝え合う力の向上評価 児童:83%、保護者:90% ・教師による児童の伝え合う力の向上評価 89% ・図工作品の積極的な出品、校内展示 ・小中音楽会の中止	伝え合う活動に対する評価は低目傾向であったが、1人1台端末の普及により今後の向上が期待できる。安心して学べる環境づくりとして、「子どもの名前を呼ぶ」「教室の中にありがたうを増やす」を共通テーマとして取り組み、少しずつ成果をあげてきている。合唱・合奏の活動制限は今年度も続いたが、打楽器の導入や運動場での歌唱練習など工夫して行った。体育では運動会の表現運動を中心に取り組み、40周年行事でも披露できた。図工美術の作品制作は中心的な教職員の指導が学校全体に影響し、豊かに表現された作品が校内にあふれており、次年度も継続していく。	B
<目標値> ・授業のなかで必ず発表・発信の場を設定 ・児童・保護者の伝え合う力の向上評価80%以上 ・図工作品の積極的な出品、校内展示 ・体育的活動、音楽的活動による表現活動	伝え合う活動に対する評価は昨年度同様低目の傾向を示した。(昨年度実績 児童:79%、保護者:91%、教職員:85%)コロナ禍の影響により、話し合い型の活動制限の影響もあると思われる。		
<行動計画> ③ 書く力と読解力の向上に取り組む。	<目標値に対する達成状況> ・ふり返り活動実施率90% ・年間読書量 一人平均 84.06冊:1月11日現在(前年106冊) ・学校評価アンケート「本を読むのが好き」 児童:83%、保護者:62%、教職員:89% ・おはなし隊による計画的な読み聞かせの実施(地域ふれあい集会含む) ・学調「文書をまとめて要約できる」全国平均より+7.5%(6年) ・みえスタ「指定の文字数で答える」 県平均より +12.7%(4年)+48.5%	授業時のふり返りはもちろんであるが、書く活動の日常化に努めた。体験から感じ取ったことを表現するよう指導した。(日記など)またそれとともにその書き方の指導として、ワークシートの活用なども大切である。読み聞かせの継続や図書館指導員による指導などの成果は感じられるが、読書量の少ない児童への働きかけも引き続き必要である。さらに読解力をつけるために、語彙力を増やしたり、要約力を鍛えたりする取り組みを行っていきたい。	B
<目標値> ・ふり返り・まとめの充実 ・年間読書量一人100冊 ・学校評価アンケート「本をよく読む」80%以上	自主学習ノートの紹介活動「キラキラノートの森」掲示 ・学校評価アンケート「毎日家で勉強している」 児童:95%、保護者:95%、教職員:100% ・南小版シートを活用したチャレンジ週間 年間3回	個々に差はあるものの、ほぼ全児童が毎日家庭学習の取り組みを重ねている。音読・漢字・計算などの宿題と授業の予習復習や調べ学習などの自主学習を続けている。次年度も続けていきたい。また「チャレンジ週間」「かめやまお茶の間10選」「キラキラノートの森」などの成果のあった取り組みも継続していく。 なお、3学期には1人1台端末の持ち帰りによる家庭学習の啓発も行っており、次年度に向けてより効果的な方法を検討していく必要がある。	A
<行動計画> ④ 学力向上に向けた「学習規律・授業改善・学習習慣の確立」に努める。	<目標値に対する達成状況> ・家庭学習の手引き 6月配布 ・自主学習ノートの紹介活動「キラキラノートの森」掲示 ・学校評価アンケート「毎日家で勉強している」 児童:95%、保護者:95%、教職員:100% ・南小版シートを活用したチャレンジ週間 年間3回	自主学習ノートの紹介活動やチャレンジ週間の取り組みを継続して実施できた。	
<目標値> ・家庭学習の手引き配布 ・自主学習ノートの充実 ・学校評価アンケート「毎日家で勉強している」80%以上 ・南小版シートを活用したチャレンジ週間の実施年間3回			

2021(令和3)年度 亀山南小学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅱ

重点目標		【2】体験活動を効果的に取り入れ、子ども一人ひとりの「生きる力」の育成に努める。 学校自己評価: B	
		〔評価〕A:達成 B:概ね達成 C:不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	今後の課題・方針	評価
<行動計画> ① 地域と連携した豊かな体験活動を推進する。 <目標値> ・学校花壇づくり ・里山学習 ・人権集会 ・地域ふれあい集会 ・宿泊体験学習 ・保育園交流 ・防災学習 ・四小交流 ・学習発表会(6送会) ・アンケート肯定的評価90%	<目標値に対する達成状況> 実施した体験活動 ・全校遠足 ・社会見学(3年10月、5年11月、4年3月予定) ・地域ふれあい集会(創立40周年行事) ・学校花壇づくり ・全校植植え集会、クリーン集会 ・里山学習 ・人権集会 ・保育園交流・学習発表会(6送会) ・県内修学旅行 ・5年ディキャンプ(防災体験含む) 昨年度より、感染防止対策をしながら工夫して実施できた活動が増えた。 ・「人とのかかわり、生きる力をつける」アンケート肯定的評価 児童:88%、保護者:96%、教職員:100%	コロナ禍で開催できなかった行事もあったが、感染対策を取ったうえで、内容を工夫して実施できたものが増えた。評価も向上しているが、引き続き内容の工夫、改善を図っていききたい。 令和4年度はコロナ禍における学校運営を今年度の経験を生かして計画していく必要がある。延期も想定した日程編成を考えていきたい。(運動会の春季開催など) 地域とともに、地域のために、地域で生きていく子どもたちのために、できることは何か考えていきたい。	B
<行動計画> ② 「生きる力」の育成につながる生活科・総合的な学習の時間の授業づくりに取り組む。 <目標値> ・カリキュラムの見直し ・「生きる力」肯定的意見85%以上	<目標値に対する達成状況> ・「生きる力」肯定的意見 児童:88%、保護者:96%、教職員:100% ・カリキュラム検討 年度末で実施 地域学習を主体にして生活科・総合的な学習の時間の授業づくりを行うことを考えていたが、コロナ禍により地域との交流活動を控える事態となり、活動を制限せざるを得なくなった。しかし、今年度は状況を見ながら、感染症予防対策を行うことで、実施した活動もあった。	今年度の総合的な学習の時間では、地域の方との出会い学習に取り組んできたが、感染症の影響はここでも大きく、地域で学ぶ機会は制限された。コロナ禍により活動の制約が出ることは想定しつつも、学校外の方から生き方、地域の歴史、文化、人、物に触れることの意義は計り知れないため、できうることに最大限取り組んでいきたい。またそのために学校運営協議会を中心とした組織との連携をより深めていく。	B
<行動計画> ③ ゲストティーチャーを招いて共に活動する場を設定する。 <目標値> ・里山学習、学校花壇づくり、地域ふれあい集会など合計で年間10回以上	<目標値に対する達成状況> ・ゲストティーチャー招聘 4年福祉体験学習(身体障害者福祉協会)、 平和・歴史学習等(歴史博物館)、薬物乱用防止教室(薬剤師)、 学校花壇づくり(花ボランティア)、租税教室(鈴鹿税務署)、 里山学習(ささゆりの会)、木工教室(森林組合)等 体験学習、ゲストティーチャーとの学びを通して、人とのかかわり、生きる力をつける活動を行ってきた。コロナによって活動を自粛する傾向にあったことは残念である。	コロナ禍にあっても何人かのゲストティーチャーが今年も協力していただいた。次年度も可能な限りその機会を設定していきたい。同じ内容を伝えても教師が伝えるのと「本物」「当事者」「実物」から伝わるものは比較にならない。そうした場面を子どもの学びの場により多く準備していきたい。 リモートや動画など機器の活用により教育効果をさらに高められるよう研鑽を深めていく。また活動の幅を広げるための感染予防を徹底していく。	B

2021(令和3)年度 亀山南小学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅲ

重点目標	【3】お互いの人権を尊重し、心豊かによりよく生きる生活態度や実践力を養う。		学校自己評価： A	
			〔評価〕A：達成 B：概ね達成 C：不十分	
行動計画及び目標値		達成状況	今後の課題・方針	評価
<行動計画> ① ちがいを認め合った仲間づくりを行うとともに、一人ひとりの子どもへ有効な支援を行う。		<目標値に対する達成状況> ・Q-U実施と分析 年2回(7月、1月) ・個別の支援計画の作成(作成児童6名) ・いじめアンケート(毎学期実施) ・なかまづくりアンケート(5月実施) ・人権アンケート、レポート交流年2回 ・教育相談(6月、11月実施) ・いじめ発生件数1件 不登校児童数0人 学校全体での情報共有と取り組みを行い、いじめ事案1件は解消している。	「すべての子どもをすべての教職員で」を目指す方針の下、各種のアンケート実施後は、すぐにその記述内容を確認し、迅速な対応を心掛けた。しかし、報告・連絡・相談が後手に回るケースも見られたので、より一層の組織的対応を図る必要がある。子どものアピールやSOSに対して迅速に対応できるよう、今後も継続していく。 またコロナによる人権侵害が心配される状況において、日頃からの人権学習を生かし、児童はあたたかい声かけや行動をすることができた。保護者・地域の皆様のあたたかい見守りにも感謝したい。 不登校への対応方針もとに、情報を共有して児童支援に当たることができた。欠席児童の少なさは長年続く南小の特徴の一つであり、今後も継続できるよう家庭、地域との連携に努めていく。	A
<目標値> ・Q-U実施と分析年2回 ・個別の支援計画の作成 ・人権アンケート実施・分析、レポート交流年2回 ・教育相談を年2回以上開催 ・いじめ発生件数0件 ・不登校児童数0人				
<行動計画> ② 保護者・地域への啓発に努める。		<目標値に対する達成状況> ・授業参観は、コロナ対応のため中止となった。地域のGTとの交流の授業を参観していただいた。 ・人権啓発や母校(郷土)愛の向上を目的とした学校だより発行 年3回(1月現在) 地域との会議等を催すことが困難であったので、学校だよりやHP等で人権啓発を目指した内容の発信も意識して取り組んだ。	人権学習、人権標語作品、いじめ防止月間などを中心に学校だよりやホームページで学校の人権学習や仲間づくり、いじめ防止の取り組みを紹介することに努めた。さらに内容の充実を図っていききたい。次年度も工夫しながら、学校を開き、情報発信に努めていきたい。	B
<目標値> ・人権・道徳教育に関する授業参観の開催年1回以上 ・人権啓発を目的とした学校だよりの発行年1回以上				
<行動計画> ③ 子どもの関わる力と主体的に取り組む力の育成を図る。		<目標値に対する達成状況> ・学校評価アンケート「友だちを大切に思い仲良くしている」児童：100%、保護者：94%、教職員：100% ・なかよし集会年4回、なかよし班遊び 年4回(春の選考活動含む) ・なかよし班給食 実施なし ・TMリーグ 実施なし ・児童会でのイベント2回(Zoomによるクイズ大会、みんなDEおえかき大会) 昨年度と比べると、なかよし班活動を多く実施することができた。子どもたち同士の関わりを増やすために、今年度からなかよし集会の後になかよし班遊びに取り組んだ。 今年度は、感染対策をして実施できるものが増えた。しかし、感染状況を見て、感染防止のため、活動を控えることもあった。	昨年度の活動をふりかえり、今年度は学校全体での活動は人数が多くなるため、内容に制限を加えて行った。また、感染対策をしながら児童会の活動等は、行った。少人数での活動となったが、学年間の交流活動や学年単位で子どもが主体となる活動を工夫してきた。 例：なかよし班遊び おもちゃランド 百人一首大会 南小夏祭り この経験は財産となるものである。次年度も工夫した活動を展開し、子どものかかわる力、主体的に取り組む力を育てていきたい。	B
<目標値> ・学校評価アンケート「友だちを大切に思い仲良くしている」90%以上 ・なかよし集会、なかよし班遊び又は全校行事 月1回 ・なかよし班給食、なかよし班遊びは、予定せず。 ・TMリーグの開催 年3回				
<行動計画> ④ みなみ保育園や小中学校との交流学習を推進する。		<目標値に対する達成状況> ・四小交流 オンラインで開催(1/24) ・亀中校区人権フォーラムを本校を会場に実施(11/30) ・5年生をはじめとする保育園との交流学習 年2回 昨年度はできなかった校区人権フォーラムや四小交流は、参加人数を減らしたり、オンライン交流を取り入れたりして開催できた。	実際に一か所に集まって交流するような取り組みはあまりできなかったが、保育園交流は具体的な触れ合いを減らすことで2回実施した。また、規模を縮小したり、交流の方法を工夫したりすることで開催できる活動が増えた。 次年度も交流活動を工夫し、取組の幅を広げていけるよう検討していきたい。	B
<目標値> ・保育体験、四小交流年3回、人権フォーラム ・5年生をはじめとする保育園との交流学習				

2021(令和3)年度 亀山南小学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅳ

重点目標		学校自己評価: B	
【4】基本的生活習慣の定着を図り、健康で安全な生活の確立を図る。		〔評価〕A:達成 B:概ね達成 C:不十分	
行動計画及び目標値	達成状況	今後の課題・方針	評価
<行動計画> ① 挨拶運動の充実と啓発活動の取り組みに努める。	<目標値に対する達成状況> ・おはようみなみ挨拶運動 7月実施 ・あいさつに対する肯定的評価 児童:92%、保護者:89%、教職員:72%、地域:86%	あいさつへの評価は年度比較によると児童と地域は少し低下し、保護者と教職員は少し向上しているコロナ対応として大きな声を控えるなどの場面もあったが、そこから学んだこととして、あいさつの声の大きさにこだわることも、相手の目を見たり、お辞儀、会釈をしたりといった態度やマナーを指導していくことの重要性も感じた。次年度での取り組みに生かしていく。	B
<目標値> ・おはようみなみ挨拶運動の充実 ・保護者アンケート肯定的意見90%以上	あいさつへの評価は年度比較によると児童と地域は少し低下し、保護者と教職員は少し向上している。		
<行動計画> ② 健康安全の取組の充実にも努める。 ・健康観察 ・交通安全指導 ・子どもの体力向上 ・安全点検 ・食育	<目標値に対する達成状況> ・登下校指導 月1回実施、交通安全教室(中止→動画等により指導) ・学校保健委員会(リモートで規模を縮小して開催) ・全学年体力テスト実施 ・5年ディキャンプ時に非常食の調理体験 ・防災や健康・安全への指導 保護者評価 95%	感染症対策として消毒作業等を、継続配置されたスクールサポートスタッフを中心にを行った。今後も継続して効率よく進めていく。コロナ対策をしながら方法を工夫して実施していこうという体制が整いつつある。今後も従来の枠にとらわれるのではなく、内容を検討し臨機応変に実施していきたい。 一定数ではあるが、家庭での健康観察の入力や観察票の持参を忘れる児童がいるため、家庭への連絡を含め協力を繰り返し求めていくことが必要である。 横断歩道の渡り方などの体験的な安全指導の学習の機会を設けることができなかった。 縄跳びなど個人で取り組める運動を推奨したり、運動に対する意欲を高める取り組みを行ったりすることで、運動量を増やしていきたいと考えている。	A
<目標値> ・登下校指導月1回、交通安全教室の開催 ・学校保健委員会の開催 ・全学年体力テストと継続指導 ・保護者アンケート肯定的意見90%以上	学校の環境衛生を整えるために、教職員が当番制で消毒にあたったが、スクールサポートスタッフ等の配置を今年度もいただいたので適切に実施することができた。 新型コロナウイルス感染症対策の一つとして、家庭での検温・健康観察票の提出を毎朝求めているが、令和3年度9月からデジタル化を測り、迅速な健康観察の確認と、保護者の紙への記入の負担軽減を測った。 新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮し、体育の授業内容や休み時間の遊び方に制限があった。外で遊ぶ機会が少なくなったり、授業内での運動量の確保が難しかったりすることがあった。		
<行動計画> ③ 学校の環境美化・整備の充実にも努める。 ・児童の環境整備活動 ・芝生運動場整備	<目標値に対する達成状況> ・クリーン集会 6/10実施(校地内にて) ・安全点検 月1回実施 ・芝生運動場の維持管理 施肥5回、刈り込み月3回～4回 ・日常の清掃指導 ・PTA奉仕作業 中止	クリーン集会は、児童の環境学習に大きな意味をもつと考え、感染予防を十分にとった上、地域をまわるのではなく、校地内に限定し実施した。地域の代表者の方々にも数名参加していただき、活動できたことは有意義であった。 運動場を含めた環境整備についてはできることを行ってきた。保護者の有志の方や地域ボランティアが植木の剪定や観察池の整備などに力を貸していただき、感謝したい。 学校の力だけで芝生運動場をはじめとする校庭の整備は非常に負担が大きいため、引き続きボランティアの方々やPTA奉仕作業、市の労務作業員の方などの力を借りながら進めていきたい。	B
<目標値> ・クリーン集会 ・安全点検月1回 ・芝生運動場の維持管理 ・グランド施肥5回、刈り込み夏季月3回～4回 ・日常の清掃指導	昨年は中止となったクリーン集会は、校地内に変更し、全校児童と地域の代表の方々で環境学習を実施した。芝生の生育状況はあまりよくなく、棘のあるメリケンソウの繁殖も心配である。草刈り機が古く、何度もメンテナンスを行った。整備には人力と費用がかかる。		

2021(令和3)年度 亀山南小学校 具体的行動計画 学校自己評価表Ⅴ

重点目標			
【5】保護者、地域とのコミュニケーションを図り、地域と一体となった学校運営・教育活動を実践する。 学校自己評価: B			
〔評価〕A:達成 B:概ね達成 C:不十分			
行動計画及び目標値	達成状況	今後の課題・方針	評価
<行動計画> ① コミュニティスクールとして、「地域とともにある学校づくり」を推進し、学校運営協議会での熟議を具体的な形で学校運営に反映していく	<目標値に対する達成状況> ・学校運営協議会の開催年間4回(書面決議も含む) ・創立40周年記念行事兼地域ふれあい集会の開催11月20日実施 ・学校運営協議会によるビジョンの共有 ・学校関係者評価の実施と公開 2月実施予定 ・地域関係者アンケート「学校は地域と連携して教育活動をすすめている」100% ・ホームページでの学級情報の発信 ほぼ毎日更新 ・学校だより地域回覧 発行数23(1月28日現在) 創立40周年記念行事兼地域ふれあい集会を学校運営協議会で議論を重ね、コロナ禍にも関わらず、工夫して実施することができた。また、子どもたちの様子の交流を毎回行い、子どもの見方・育て方についてのしさをいただく場面もあった。	今年度もコロナ禍の難しい学校運営を強いられる中で学校運営協議会で議論していただくことで学校の方向性を定めることができた。創立40周年行事の持ち方を前向きに検討し、開催することができた。また子どもたちの様子の交流では、貴重な意見をいただき、子ども理解が進んだので、今後も継続していきたい。また、委員の方にご尽力いただき、通学路の安全の観点から、安全表示の設置を検討したり、通学路にある事業所に防犯カメラの設置をお願いしたりしている。さらに地域コミュニティと連携し、民家の少ない場所に防犯カメラの設置を働き掛けていきたい。さらに「学校支援ボランティアの開拓」と「地域・学校の双方向的な活動の充実」を検討していきたい。	B
<目標値> ・学校運営協議会の開催年間4回 ・学校運営協議会委員の授業・行事参観の実施 ・創立40周年記念行事兼地域ふれあい集会の開催 ・学校運営協議会によるビジョンの共有 ・学校関係者評価の実施と公開 ・地域関係者アンケート「学校は地域と連携して教育活動をすすめている」80%以上 ・ホームページでの学級情報の発信週1回 ・学校だより月1回以上発行(地域回覧)			
<行動計画> ② 開かれた学校づくりを推進する。 ・フリー参観・家庭訪問・地区集会 ・地域ふれあい集会 ・学校保健委員会・地域行事への参加	<目標値に対する達成状況> ・学校だより地域回覧 発行数23(1月28日現在) ・学年通信の発行 年25号以上 全学年達成見込 ・学校運営協議会だよりの地域回覧 年間2回発行 ・ホームページのほぼ毎日更新 ・保護者アンケート肯定的意見 88% コロナ禍の学校運営を進めるうえで、直接的な接触が難しくなり、今年度も多くの行事を中止又は縮小することとなった。そのため学校だよりとホームページをはじめとするツールを用いた学校からの情報発信を意識してきた。	ホームページは、ほぼ毎日更新することができた。内容は、日常の活動や行事、子どもたちの様子はもちろんだが、教職員の仕事ぶりや研修の様子なども知ってもらえるよう多角的に発信した。個人情報保護の観点から、写真は小さくし鮮明にならないよう配慮した。また、コロナ対応で授業参観が思うようにできなかった際は、授業の様子をホームページで動画配信を行ったり、懇談会の待ち時間に図書室で行事の動画を自由に見ていただける場を用意したりして対応した。今後も、積極的に学校の姿勢や考えも含め工夫して発信していきたい。引き続き学校公開をはじめ、地域とともにある学校づくりのため具体的な取り組みを行っていきたい。	B
<目標値> ・学校だより月1回以上地域回覧 ・学年通信の発行年25号以上 ・学校運営協議会だよりの地域回覧 ・ホームページの随時更新 ・保護者アンケート肯定的意見85%以上			
<行動計画> ③ 学校、保護者、地域がふれあい、活動する機会を設定し、連携して子どもの健全育成に努める。	<目標値に対する達成状況> ・地域ふれあい集会 11月20日実施 ・まちづくり協議会との連携による地域の運動会、文化祭 中止 ・老人会等との交流活動 中止 天神和賀、南部ともにまちづくり協議会による行事が中止となったため、地域の運動会、文化祭、農芸祭、老人会訪問などが中止となった。でも、「地域ふれあい集会」は創立40周年行事と兼ねて制限付きながらも実施できたことは有意義であった。	今年度も交流活動の多くが中止となってしまったが、感染対策をしっかりと講じながら昨年度よりは実施することができた。次年度は、延期されることも想定に入れて行事を組んだり、リモートを効果的に取り入れたりするなどの対策をして、前向きに取り組んでいきたい。	C
<目標値> ・地域ふれあい集会の開催 ・まちづくり協議会と連携した地域の運動会、文化祭への参加 ・老人会等との交流活動			

2021(令和3)年度 亀山南小学校 具体的行動計画 学校自己評価表VI

重点目標		【6】働きやすい環境づくり、ワーク・ライフ・バランスの確保に努める。		学校自己評価: C	
行動計画及び目標値		達成状況		今後の課題・方針	
<行動計画> ①働きがいがあり、健康で明るい職場づくりに努める。		<目標値に対する達成状況> ・仕事のやりがいに対する教職員評価100% ・OJTの推進に対する教職員評価 100% ・職場の人間関係に対する教職員評価 94% ・職員会議等の有効性に対する教職員評価 100% ・自己目標設定シートの効果的な活用 ・ストレスチェック(健康リスク経年変化)すべての項目で昨年よりリスクが低下 研修会に若手の教師の意見を取り入れ、職場に合ったOJTに取り組むことができた。職員室の配置を、ベテラン・若手のバランスを考え設定し、日頃の会話から問題点を洗い出し、アドバイスを行い、チームの和を大切にした職場づくりを行うことができた。		教職員の人間関係に対する評価が昨年より20%向上した。その他の項目も向上している。しかし、ストレスチェックの「職場の人間関係でのストレス」が平均よりリスクが高い結果なので、さらに安心して働ける環境になるよう、改善を図る必要がある。 お互いの悩みや心配事を話し合う事のできる、職員室の雰囲気づくり、話し合う場や時間の設定などができるとういとお考える。。	
<目標値> ・OJTの推進に対する教職員評価80%以上 ・職場の人間関係に対する教職員評価80%以上 ・職員会議等の有効性に対する教職員評価80%以上 ・自己目標設定シートの効果的な活用 ・ストレスチェック職場の支援 全国・市内平均以上		<目標値に対する達成状況> ・職員会議等の有効性に対する教職員評価 100% ・校内人事、分掌の公平性、意欲的環境に対する職員評価 83% ・職場の人間関係に対する教職員評価 94% ・職員会議資料のペーパーレス化の実現 スクールサポートスタッフを活用し、効率よく事務や会議を行える準備ができた。創立40周年行事では、プロジェクトリーダーを置いて企画・運営の円滑な推進に努めた。		校務分掌からの企画立案等が個人の手に委ねられている面があり、管理職が提案前の相談にのるなど、企画段階から複数で取り組める体制を意識してきた。 今後はさらに組織的に相談できる体制づくりとして、相談役の設定や部会の一部導入など検討していきたい。	
<行動計画> ③総勤務時間の縮減に取り組むとともに、休暇等の積極的な取得に努める。		<目標値に対する達成状況> ・一人あたり月平均時間外労働 23.5時間(12月末現在)(前年度末26.3) ・一人あたり年間休暇取得日数 17.8日(12月末現在)(前年同時期19.8) ・定時退勤日 月2回設定+個人の定時退勤日月2回以上 一人あたり月平均時間外労働は目標値は達成しているが、さらに縮減に努力したい。ストレスチェックからは、自覚的な身体負担度が市内のデータよりも高くなっており、一人ひとりへの負担の大きさがうかがえる。 ほとんどの職員の年休取得率が50%を超え、6割を超える職員の取得率が75%を超えている。学校休校日を含め、年休を取りやすい職場にすることが出来ている。各月の定時退校日を設定し、互いに声を掛け合い定時退校することに務めた。行事黑板上に定時退校の札をつけ、職員の意識を高めている。会議資料はデーター化し、事前に資料の確認が出来るようになったので、会議資料時間の短縮、会議の効率化、勤務時間の短縮に務めた。勤務時間の長い職員には個別に声をかけたり、OJTを行ったりし、校務時間の効率化、短縮化を行うことができた。ほとんどの会議を設定時間内に行うことができた。		一人あたり月平均時間外労働は、昨年度よりは減少しているものの、数字としては市内小学校ではワースト上位にある。改善活動の必要性は変わらない。行政にも改善を働きかけるとともに学校体制として職場環境の改善に引き続き取り組んでいく。定時退校は、ほぼ達成はできているが、もう少し、個人個人の意識が高まるとよい。声かけだけではなく、勤務時間の長い職員に合った公務の効率化を具体的に考える必要がある。 退校予定時刻ボードの活性化を図り、実効性のあるものとしたい。	
<目標値> ・一人あたり月平均時間外労働24時間以下、年間360時間以下 ・月最大45時間以下 ・一人あたり年間休暇取得日数前年度比1日増 ・毎月4回定時退勤日実施 ・退校予定時刻ボードの活用 ・会議資料の事前配付による会議の効率化 ・職員会議・全体研修会以外の放課後の会議60分以内				C	